



先進都市現地調査 ～日立市におけるBRTを活かしたまちづくり～

群馬県 国土整備部 都市計画課

令和元年11月18日(月)に、茨城県日立市で群馬県都市計画協会主催の先進都市現地調査を実施しました。

■日立市 ^{おおみか} BRT・大甕駅周辺～久慈浜地区

日立市は関東平野の北東端、茨城県北東部に位置し、温暖な気候で海と山の豊かな自然に恵まれたまちで、日立製作所発祥の地です。明治末期から鉱業、電気機械産業など「ものづくり」を中心に発展してきました。地形及び土地利用上の制約等から、交通の主流は南北方向の移動となっており、JR常磐線、国道6号、常磐自動車道が縦断しています。JR常磐線の5駅を中心に南北に細長く市街地が形成され、高度経済成長期には西側の山すそに住宅地の開発が進みました。しかしながら、近年では少子高齢化や人口流出の影響を受け、日立電鉄線が乗車人員の減少、施設の老朽化に伴い平成17年に廃線となりました。一方で、慢性的な道路交通渋滞により国道6号の旅行速度は茨城県内最低レベルと交通インフラに課題を抱えていました。こうした状況の中、平成20年に市が鉄道跡地を寄付等により取得すると、その後は課題を解決すべく鉄道跡地活用整備基本構想、新交通導入計画が策定され、現在のBRT(Bus Rapid Transit：バス高速輸送システム)の整備・運行に至りました。交通課題の解決に加え、整備区内に地域交流の拠点創出を行なったことも評価され、平成28年に第11回まち交大賞(国土交通大臣賞)受賞しています。

現地視察では、実際に運行しているBRTに乗り、日立市新交通推進課職員にご案内いただきました。BRTの導入にあたっては、行政だけではなく地域住民、沿線にある企業・高校・商業観光事業者等の意見をくみ上げ、今までのバスのイメージを変えるデザインがされており、停留所のシェルターやサインなど随所にその様子が伺えました。また、専用道により定時性・速達性が確保されており、交通インフラの課題をBRTが解消していることが実感できました。



BRTで運行しているバス



停留所の案内表示



鉄道跡地を利用したBRT専用道